



ACS日本支部ニュース

NEWSLETTER FROM THE JAPAN CHAPTER
OF AMERICAN COLLEGE OF SURGEONS

2025. Apr. Vol.16

主な内容

- American College of Surgeons (ACS) 日本支部 President に就任して P1
- ACS Japan Chapter President 退任のご挨拶 P2
- アメリカ外科学会名誉会員に選ばれて P3
- ACS Japan Chapter Secretary 退任にあたって P4
- 2024 Japan Exchange Fellow として第110回 ACS 会議への参加 P5



American College of Surgeons (ACS) 日本支部 President に就任して



慶應義塾常任理事、医学部外科学教授

北川 雄光

Yuko Kitagawa, MD, PhD, FACS

この度、國土典宏先生の後任として ACS (American College of Surgeons) 日本支部会長を仰せつかりました慶應義塾の北川雄光です。

ACS は 1913 年に米国で設立された外科医と外科医療の質向上を目的とした学術団体で会員 (Member) 数は約 93,000 に上り世界最大の外科系学術団体として広く知られております。本来米国主体の学術団体ではありますが、日本を含め全世界から 6,500 人の外国人会員が加入しており、外科学の国際的な発展と普及を目指した団体となっています。各国・地域の支部活動も盛んで、米国内に 65、カナダ国内に 3、その他 54 ケ国に支部 (Chapter) が存在します。日本はオーストラリア、ニュージーランド、タイ、韓国、中国 (香港)、フィリピン、パキスタンとともに Region 16 に属しており、現在國土典宏先生が Region 16 の国々の Governor の中でも中心的な役割をお務めです。

ACS は米国内に留まらず国際貢献にも積極的に取り組んでおり、特に開発途上国における外科関連の教育支援に力を注いでいます。また、年 1 回の Clinical Congress は外科学における最先端の情報や世界の著名な外科医に接することができる貴重な機会となっています。日本の若手外科医の皆様にとっても、自らの専門分野で活躍する世界の外科医と出会い、海外留学のきっ

かけを作る絶好の場にもなっています。また、継続的な参加を希望される場合は是非会員 (Fellow, FACS) になって国際交流のネットワークを広げていただきたいと思います。

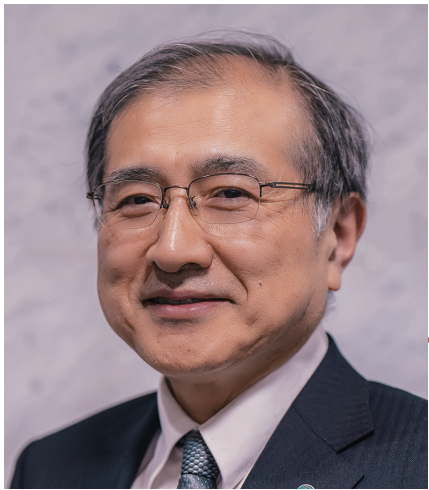
ACS 日本支部は、日本外科学会をはじめとする日本の外科系学術団体と ACS の交流と連携を促進することを目的として、1987 年に創設されました。今回、東京大学肝胆膵外科・人工臓器移植外科教授の長谷川 潔先生の後任として日本支部 Secretary に着任した国際医療福祉大学成田病院消化器外科教授の篠田昌宏先生とともに日本支部の発展のために微力ながら尽力して参りますのでご支援のほど何卒よろしくお願い致します。

略 歴

- | | |
|-------------|--------------------------------------|
| 1986 年 3 月 | 慶應義塾大学医学部 卒業 |
| 1993 年 8 月 | カナダプリティッシュコロンビア 大学 留学 (1996 年 7 月まで) |
| 2005 年 11 月 | 慶應義塾大学 専任講師 (医学部外科学) |
| 2007 年 4 月 | 慶應義塾大学 教授 (医学部外科学) |
| 2009 年 4 月 | 慶應義塾大学病院 腫瘍センター長 |
| 2011 年 10 月 | 慶應義塾大学病院 副病院長 |
| 2017 年 8 月 | 慶應義塾大学病院 病院長、慶應義塾 理事 |
| 2021 年 5 月 | 慶應義塾常任理事 |



日本支部情報交換会 集合写真
(2024 年 10 月 20 日 (日)、Clinical Congress2024 会期中、ホテルニッコーサンフランシスコにて)



ACS Japan Chapter President 退任のご挨拶



国立健康危機管理研究機構理事長

國土 典宏

Norihiro Kokudo, MD, PhD, FACS, FRCS

2018年4月から2024年まで日本支部会長を務めさせていただきました。Governorは2019年から2025年秋までの任期となりますが、支部長退任にあたりご挨拶申し上げます。支部長就任時、前日本支部長・Governorの矢永勝彦先生、前Secretaryの吉田和彦先生を始め歴代Governor、支部長、Councilorの先生方には大変お世話になりました。特に、矢永先生には引き継ぎにあたり日本支部のプレゼンスをいかに発揮するか、ACSでの日本としての活動方針など懇切丁寧にご指導いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

ご存知のようにACSは1913年に設立された外科医と外科医療の質向上を目的とした学会で、会員数は約88,000で世界最大の外科医の学会です。その中には我々日本人を含め130を超える国から約6,500人の外国人会員がおり、その人数は年々増加傾向にあります。米国内に65、カナダ国内に2、その他46ヶ国にChapter（支部）が存在します。わが国の外科医にとってACSは米国だけでなく世界の外科医と交流するための有力なプラットフォームです。特に年1回のClinical Congressは最先端の情報や外科関連製品に接するまたとない機会であり、日本の特に若手外科医の皆さんに積極的な参加を呼びかけてきました。New fellow (initiate)となる日本人会員はコロナ禍の影響もあり一時年間10数名に減少しましたが2024年度は34名に増加し最近10年では最大の人数となりました。2018年からの通算では152名となり、日本の存在感を示すことができました。

私の任期の半分は新型コロナ禍の

ため、2019年10月サンフランシスコ開催のClinical Congress以降face-to-faceの支部会、Clinical Congressと同時に開催の支部レセプションができなかったという苦しい状況が続きました。その間オンラインでの支部会、そして2022年10月にサンディエゴで再開後のレセプションに参加いただき支部を盛り上げていただいた会員の皆様、米国で活躍中の日本人外科医の皆様に厚く御礼申し上げます。

日本外科学会にも大変お世話になりました。矢永前会長の時代からACSとの密接な関係を築いていただき、2012年のPatricia Numann会長以来、毎年その年のACS会長が日本外科学会年次学術集會に招待され、特別講演と支部会での講演をしていただくことが慣例となっています。私の任期中も2019年にRonald V. Maier会長、2020年Valerie W. Rusch会長（オンライン）、2022年Julie Ann Freischlag会長（オンライン）、2023年E. Christopher Ellison会長、2024年Henri Ronald Ford会長に参加いただくことができました。日本外科学会はACSの日本のcounterpartと言うべき学会ですが、日本外科系連合学会や日本臨床外科

学会とも将来交流が進むことを期待したいと思います。

私自身のGovernorとしての活動はInternational Relations Committee、Governors Chapter Activities International Workgroupのメンバーとして始まり、後半は同WorkgroupのchairとしてNational Chapterの拡大と活性化、低所得国へのoutreach、International Fellowshipの推進等を行いました。ACS事務局のサポート体制もしっかりしており、特にInternational Chapters、Member ServicesのマネージャーであるBrian Frankel氏には大変お世話になりました。また、日本支部からは東京慈恵会医科大学葛飾医療センター外科の川瀬和美先生がWomen in Surgery Committee (WiSC) 委員として活躍されました。Diversity and Inclusionは世界の大きな潮流であり、ACSとしても重視しています。日本支部としてこれからもこのムーブメントを支援していただきたいと思います。

最後になりましたが、日本支部secretaryとして支部を支えてくださった長谷川 潔東京大学肝胆膵外科・人工臓器移植外科教授と教室秘



右より長谷川 潔先生、Richard Lo先生（香港Pedder Health, ACS Governors Chapter Activities International Workgroup chair 前任者）、筆者（2023年10月ボストンにて）

書の仲田むつみさんに深甚なる感謝の意を表したいと思います。日本支部会計・事務の管理、fellow応募者の面接手配、スポンサー企業への働きかけ、支部会やClinical Congressでのレセプション準備など日本支部を盛り上げるために大変お世話になりました。今年からは北川雄光支部長、篠田昌宏 secretary 両先生の強力な新体制を得て、ACS日本支部が益々発展することを祈念いたします。6年間本当にありがとうございました。

略 歴

- 1981年 東京大学医学部医学科卒業、同第二外科研修医
- 1987年 東京大学第二外科助手
- 1989 - 91年 米国ミシガン大学外科留学
- 1995年 - 癌研究会附属病院 外科医員（2001年 同医長）
- 2001年 - 東京大学肝胆膵外科 助教授
- 2007年 - 東京大学肝胆膵外科・人工臓器移植外科 教授
- 2017年 - 国立研究開発法人国立国際医療研究センター 理事長（現在に至る）
- 2012 - 16年 日本外科学会理事長
- 2018年 第118回日本外科学会会頭
- 2015 - 17年 A-PPHBA (Asian-Pacific Hepato-Pancreato Biliary Association) President
- 2020 - 22年 IHPBA (International Hepato-Pancreato Biliary Association) President
- 2022 - 24年 APPLE (Asia-Pacific Primary Liver Cancer Expert Association) President



アビテン®に含まれるコラーゲンが血小板を活性化させ、止血カスケードを促進させます。

コラーゲン使用吸収性局所止血材

BD アビテン™

承認番号: 30300BZX00066000
クラス分類: 高度管理医療機器 (クラスIV)
一般名称: コラーゲン使用吸収性局所止血材
償 還 区 分: 微線維性コラーゲン

製品に関するお問い合わせはコチラから

・事前に必ず添付文書を読み、本製品の使用目的、禁忌・禁止、使用上の注意等を守り、使用方法に従って正しくご使用ください。
・本製品の添付文書は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構 (PMDA) の医薬品医療機器情報提供ホームページでも閲覧できます。

製造販売元
株式会社メディコン
〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地1-13-22
カスタマーサービス Medicon-web@bd.com

crbard.jp

BD, the BD Logo, Avitene are trademarks of Becton, Dickinson and Company or its affiliates. ©2023 BD. All rights reserved.





承認番号: 22600BZX00455000
クラス分類: 高度管理医療機器 (クラスIV)
一般名称: 吸収性局所止血材
償 還 区 分: デンブ由来吸収性局所止血材 (本体アブリケータのみ)

植物デンプン由来の吸収性局所止血材が外科手術をサポートします。

デンプン由来吸収性局所止血材

バード アリスタ® AH

製品に関するお問い合わせはコチラから

・事前に必ず添付文書を読み、本製品の使用目的、禁忌・禁止、使用上の注意等を守り、使用方法に従って正しくご使用ください。
・本製品の添付文書は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構 (PMDA) の医薬品医療機器情報提供ホームページでも閲覧できます。

製造販売元
株式会社メディコン
〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地1-13-22
カスタマーサービス Medicon-web@bd.com

crbard.jp

BD, the BD Logo, Arista are trademarks of Becton, Dickinson and Company or its affiliates. ©2023 BD. All rights reserved.





アメリカ外科学会名誉会員に選ばれて



大阪大学医学部医学系研究科 外科学講座消化器外科学 教授

土岐 祐一郎

Yuichiro Doki, MD, PhD, FACS (Hon)

2023年11月にACSのSecretaryからHonorary Fellowshipに選ばれましたというメールが来ました。その年の1月に森正樹先生にお願いして推薦状などを準備していましたが、絶対に選ばれることはないだろうと思っていたので大きな驚きと喜びになりました。私自身、留学経験はありますが英語が苦手で国際学会にもあまり行かないことが多かったのでACSのHonorary Fellowshipは猫に小判かもしれません。それでもやはり嬉しさは格別で名誉会員の楯は教授室の一番目立つところに飾ってあります。

元をたどると私が森正樹先生と一緒に大阪大学消化器外科教授をさせていただいたのは10年間でしたが、森先生のお部屋のFACSの写真がずっと気になっていました。「土岐さんもFACSを取りなさいよ」と言われ続けていました。私はACSはこれまでに1回しか行ったことがありませんでした。門田守人先生の外科学会の視察ということで2005年のサンフランシスコだったと思います。ACSのスケールの大きさ、格調の高さに気後れして、その後はACSに行っていませんでした。なのでFACSなどとても分不相応だと思い応募していませんでした。そんな私が少し身近にACSを感じるようになったのは2019年に第119回日本外科学会を主催させていただいた時です。森正樹先生の紹介でACSの会長のEllison先生と国際委員長の



Eberlein先生を外科学会に招待し歓談する機会を持つことができました。特に会長招宴で森先生と二人で豊臣秀吉と真田幸村を演じた時は海外の先生は皆さん大喜びでした。

ACSの名誉会員というのは東アジアから毎年一人で中国、韓国などのライバルを考えると日本から毎年選ばれることは難しく、数年に一人といった状況です。森先生に推薦状を書いていただきましたが、私の専門の上部消化管は米国では数の少ない疾患です。どのようにアピールをするか悩みました。しかし、歴史的に日本が世界の胃癌、食道癌の手術を牽引してきたことや現在高度進行食道癌の大動脈・気管合併切除に取り組んでいることなどを丁寧に説明しました。米国はダイバーシティの国ですので、業績を強調する一方で人材育成や留学生などの社会貢献も大事だと思います。しかし何と言っても最後は森正樹先生の人脈とご支援で名誉会員に選ばれることができました。

今回、受賞のために久しぶりにACSに参加しました。Convocationのセレモニーは、初めて見ましたが、日本からするとど派手で小恥ずかしいといしか言いようがない式典です。何百人という新フェローが皆ハリーポッターみたいなレガリアを着てお祭り騒ぎでした。家族と一緒に来て記念写真を撮っている人も多く、フェローになるというのはアメリカの外科医にとって大きな意味があると感じました。そして自分がステージに上がってヘンリーフォード会長に名前を呼ばれてフードを首からかけられたときには、世界で8人しかいない今年の名誉会員に選ばれたといことを改めて誇らしく思いました。今回、Convocationはいささか

不安でしたが、同じステージに九大の水田祥代先生、外科学会理事長の武富紹信先生、森正樹先生と日本人の先生が3人いらしたので安心して楽しむことができました。

終ってみるとやはりアメリカは偉大でした。トランプ大統領はどちらかというと内向きでDEI (Diversity, Equity, Inclusion) を縮小させると言っていますが、国際戦略としては良くないと思います。ACSの様々なイベントには世界をまたにかけたDEIが各所にちりばめられており、アメリカの包容力の大きさには本当に圧倒されました。学会の一つ一つの演題を見ると日本と大差ないのか



もしれませんが、いろいろなイベントを見るとその根底にあるすべての地域のすべての人に良い医療を与えるという壮大な意思を感じます。人間として成長するために日本の若い外科医にも是非ACSに参加して欲しいと感じました。

ACSの日本支部のますますの発展を祈っております。

学歴

1979年 島根県立松江高等学校 理数科 卒業

1985年 大阪大学医学部医学科 卒業

職歴

1985年 7月 大阪大学医学部附属病院 第二外科研修医
1986年 7月 公立学校共済組合近畿中央病院 外科 医員
1989年 7月 大阪大学医学部 第二外科教室で研究に従事
1993年 10月 米国コロンビア大学プレジデントアンサーセンター 研究員
1996年 9月 大阪大学医学部 外科学第二教室 助手
2000年 1月 大阪府立成人病センター 第一外科 医長
2004年 8月 大阪大学大学院医学系研究科 講師 (病態制御外科)
2005年 4月 大阪大学大学院医学系研究科 助教授 (消化器外科)
2008年 5月 大阪大学大学院医学系研究科 教授 (消化器外科)
2020年 4月 大阪大学医学部附属病院長 (～2022年3月)

学会活動

日本外科学会 代議員 第119回会頭 専門医 指導医
日本消化器外科学会 評議員 専門医 指導医
日本食道学会 監事 評議員 前理事長 食道外科専門医
日本胃癌学会 監事 評議員
日本癌治療学会 監事 前理事長 代議員
日本癌転移学会 理事長 評議員 第26回学会会長
日本外科代謝栄養学会 監事 前理事長 第55回会長
日本栄養治療学会 監事 代議員
手術手技研究会 事務局 第74回当番世話人
日本胸部外科学会、日本癌学会、日本臨床外科学会、日本外科系連合学会、日本肥満症治療学会 評議員

その他の所属学会

日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本内視鏡外科学会、アメリカ癌学会、アメリカ臨床腫瘍学会など

雑誌

Esophagus 編集長

社会活動

厚労省 がん対策推進協議会 会長
日本医学会・日本医学会連合 利益相反委員会 委員長

賞罰

令和5年 高松宮妃癌研究基金学術賞
令和6年 日本消化器外科学会賞 手術部門



限界を超える。人生を変える

What science can do

アストラゼネカの歴史は、サイエンスと向き合い、不可能を可能にしてきた革新の軌跡だ。日本の医療課題に、医薬品で解を示す。がん治療の既成概念を超える。腎臓・心臓疾患により良い予後を可能にし、豊かに暮らせる明日に向けて、治療を変える。感染症の脅威を抑制し、呼吸器・免疫疾患治療に新たな治療アプローチをもたらす。患者さんの人生を変える、そのために。





ACS Japan Chapter Secretary 退任にあたって



東京大学大学院医学系研究科臓器病態外科学肝胆膵外科、人工臓器・移植外科 教授

長谷川 潔

Kiyoshi Hasegawa, MD, PhD, FACS

このたび2024年10月をもって、ACS日本支部Secretaryを退任いたしました。2018年4月以来、6年半務めたことになります。思い返せば、同年1月11日、現職に就任して1か月の私に國土典宏先生からメールがあり、ACS日本支部President就任の打診を受けているが、Secretaryとしてサポートしてほしいと言われたのがきっかけでした。アメリカ留学歴がなく、ACSにもたまたま参加する程度だった私がこの任を務める

のに若干の違和感はありましたが、もとよりNoという選択肢はありえません。また、毎年ACS本会に参加する口実ができるという若干よしまな思惑もあり、喜んでお受けした次第です。

お受けしてみると、それなりに事務仕事の負担はありましたが、國土先生、前Presidentの矢永勝彦先生（当時東京慈恵会医科大学肝胆膵外科・教授、現国際医療福祉大学消化器外科・教授）、前Secretaryの吉

田和彦先生（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター）のご指導や当科秘書さん（大竹啓子さん、仲田むつみさん）のサポートのおかげで、なんとか務め上げることができました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

一番の思い出はやはりACS本会時の日本支部パーティーです。コロナ禍で本会がVirtual開催となった2020-2021年を除き、ボストン（2018年、2023年）、サンディエゴ（2022年）、サンフランシスコ（2019年、2024年）で開催、それぞれ50-90名の参加を得て、毎回たくさんの日本人フェローや海外外科医との交流が深まり（写真参照）、Secretaryとしてのやりがいも実感できました。この会で得た人脈から医局員の留学先確保につながるなど、目に見える成果も得られました。以前の編集後記にも書きましたが、海外学会

での交流からはなぜかより胸襟を開いた関係に至れることが多いと改めて思います。昨年のサンフランシスコには妻の同伴も実現でき、とても良い思い出になりました。

退任にあたり、一つだけ気になっているのは財政面での脆弱性です。世知辛い話ですが、日本支部に対するご支援が年々減っており、とくにコロナ禍以降、厳しい財政状況になっています。この現状で引き継いでいただく現President北川雄光先生（慶應大学消化器外科・教授）、現Secretary篠田昌宏先生（国際医療福祉大学消化器外科・教授）には大変心苦しいところですが、これからはCouncilorの1人として日本支部の発展に微力を尽くしたいと思います。皆様におかれましても日本支部の活動にご理解・ご高配賜りますよう、よろしくお願いいたします。



ボストン2023

2023年ボストンでの日本支部パーティーにて、左から國土典宏先生（国立国際医療研究センター）、田村純人先生（東京大学）、加藤友朗先生（コロンビア大学）、長谷川。

略歴

1993年3月 東京大学医学部医学科卒業
6月～ 東京大学医学部附属病院 第二外科研修医
1994年12月～ 藤枝市立総合病院 外科 医員
1996年12月～ 東京大学医学部附属病院 第二外科医員
1999年10月～2000年12月および2003年1月～同6月、NTT東日本関東病院外科 常勤嘱託
2003年3月～ 東京大学大学院医学系研究科外科学専攻博士課程修了（医学博士）
7月～ 東京大学医学部附属病院人工臓器・移植外科 助手
2008年1月～ 東京大学大学院医学系研究科臓器病態外科学人工臓器・移植外科 講師
2009年8月～ 東京大学大学院医学系研究科臓器病態外科学肝胆膵外科 准教授
2017年12月～ 東京大学大学院医学系研究科臓器病態外科学肝胆膵外科 教授（現在に至る）



抗悪性腫瘍剤

劇薬、処方箋医薬品（注意—医師等の処方箋により使用すること）

ロンサーフ® 配合錠 T15 T20

Lonsurf® combination tablets

トリフルリジン・チピラシル塩酸塩配合錠

【薬価基準収載】

効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報等は電子添文をご確認ください。

文献請求先及び問い合わせ先
大鵬薬品工業株式会社
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
TEL.0120-20-4527 <https://www.taiho.co.jp/>

製造販売元



2025年2月作成



2024 Japan Exchange Fellowとして 第110回 ACS 会議への参加



東海大学医学部 外科学系 消化器外科学 講師

庄司 佳晃

Yoshiaki Shoji, MD, PhD

I. はじめに

この度日本外科学会から2024 Japan Exchange Fellow に選出して頂き、第110回 ACS 会議に参加する大変貴重な機会を戴きました。ここに感謝の意を込めて謹んで印象記を執筆させて頂きます。

II. 第110回 ACS 会議

第110回 ACS 会議は2024年10月19日から22日までの4日間、米国カリフォルニア州サンフランシスコにあります Moscone Center、及び Hilton San Francisco Union Square で開催されました。9万人を超える会員数、6万人を超える Fellow を誇る外科系最大の学会の一つである ACS の annual congress ということもあり、会場はどこも聴講者で溢れ、非常に活気がありました。Clinical Congress を通して女性外科医の演者、参加者が多いことが非常に印象的で、女性外科医が増え、また、男女共に当たり前に参加できる環境作りを進めることが今後の本邦の外科学の発展には必須であることを感じました。

初日は Fellow of ACS (FACS) の表彰式である Convocation Ceremony に guest として参加させて頂きました。大変厳かな雰囲気の中 Ceremony は進行し、世界中から1874名の先生方が新たな Fellow として表彰されました。大阪大学医学部医学系研究科 外科学講座消化器外科学 教授 土岐 祐一郎先生が世界を代表する外科医の1人として Honorary FACS Fellowship を受賞される姿を拝見し、ますます FACS に対する憧れが強くなりました。FACS として Convocation Ceremony に参加することを目標の一つに、今後も臨

床、研究共に研鑽を重ねて参りたいと思います。

2日目は早朝から他の International Exchange Fellow や ACS Award Recipients らとともに ACS Clinical Congress 2024 Opening Ceremony に壇上で参加させて頂きました。Convocation Ceremony 同様に厳かな雰囲気の Ceremony であり、スクリーンで名前を表示して表彰して頂き、大変光栄でした。様々なレクチャーがある中で米国における Military medicine や Trauma Surgery の重要性などを理解し、本邦との違いも改めて確認することが出来ました。

昼は Philanthropy and Scholarship Luncheon に参加させて頂きました。私は今回日本外科学会の支援により ACS Clinical Congress に参加することが出来ましたが、ACS では個人からの寄附金も多く、そのような donor の支援により多くの scholar が学会に参加しております。このように定期的に face to face で donor と scholar を結びつける会を実施して、若手医師の活動がこのような篤志家のサポートによって支えられているということを認識し、学会として・また一 scholar として donor に感謝の意を伝えることは重要であると感じました。また、この会には donor でもある FACS の先生方も参加しており、診療科は違えど米国と本邦の教育・医療システムの違いなどを話し合うことができ、有意義な会となりました。

夜は「International Reception」および「ACS 日本支部 Networking Event」に参加させて頂きました。Networking Event には日本から ACS に参加されている先生や、今

年 FACS になられた多くの先生が参加されており、盛会となりました。様々な診療科の先生が日本から FACS になられており、価値のある交流ができたと感じております。私自身も FACS になれました際には少しでも ACS 日本支部の更なる発展に貢献できればと考えております。

3日目は各国からの International Exchange Fellow が集まる「The ACS International Scholars & Travelers 2024 Session」に演者として参加させて頂きました。本 session では Prof. Nader Hanna/Prof. Christy Y. Chai が Moderator となり、世界各国から集まった17名の exchange fellow が自国の環境や医療状況、外科教育、様々な疾患に対する自国の試み、また、第110回 ACS 会議の International scholar として選ばれた経緯などについて発表されていました。私は自分が専門としております上部消化管悪性腫瘍に関して、本邦における治療開発や当院における新たな取り組みなどについて発表させて頂きました。お忙しい中森 正樹先生にはわざわざ発表を聞きにきて戴き、心より感謝申し上げます。各 exchange fellow の発表内容は発展途上国における外傷外科や救急外科の役割から、独自の手術支援ロボットの開発に至るまで多岐にわたり、興味をひくセッションが多数ありました。様々な環境・医療状況の各国から scholarship を獲得し ACS に参加された若手外科医と交流を深め、議論する大変貴重な機会を頂きました。

夜には森 正樹先生にお取り計らい戴き、The Board of Governors Dinner に参加させて頂きました。各国を代表する外科医が一堂に介し

盛大に行われており、貴重な経験をさせて頂きましたことを心より感謝申し上げます。また、会の途中では Academic Global Surgeon Award、Surgical Humanitarian Award、Surgical Volunteerism Award などの表彰があり、手術のみならず様々な活動をしている個人が多くの人々にその活動を認識される重要な機会であると感じました。

III. おわりに

このような名誉ある大変貴重な機会を与えて戴きました日本外科学会理事長 武富 紹信先生、国際委員会 湊谷 謙司先生をはじめとする日本外科学会の先生方、ACS Clinical Congress 2024 参加に関しましてご尽力戴きました日本外科学会事務局の方々、International Exchange Fellow として Clinical Congress に参加する上での様々なご準備をして下さった ACS 担当秘書の Mr. Christopher MacKoul MPH、現地で一緒する機会も戴きました森 正樹先生、土岐 祐一郎先生にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、Japan Exchange Fellow 応募の際にご推薦を賜りました東海大学医学部外科学系 消化器外科学 主任教授 小柳 和夫先生、同前教授 中郡聡夫先生、そして不在の間ご迷惑をおかけした東海大学医学部 外科学系 消化器外科学のメンバーにも感謝申し上げます。今回の貴重な経験を生かし、国際交流を深め、今後の外科学の発展に尽力させていただければと存じます。

利益相反：なし

略 歴

2011年4月 慶應義塾大学医学部 外科学教室 一般・消化器外科 助教
2016年4月 公益財団法人がん研究会 がん研有明病院 消化器センター胃外科医員
2019年5月 Senior Post-doctoral Research Fellow, Translational Molecular Medicine, Saint John's Cancer Institute, CA, USA
2022年4月 東海大学医学部 外科学系 消化器外科学 助教
2023年4月 同 講師



The ACS International Scholars & Travelers 2024 Sessionにて



New Fellows

新入会員名簿

Atsushi Shimizu	清水 敦 (自治医科大学外科学講座 消化器一般移植外科学)
Daisuke Izumi	泉 大輔 (済生会熊本病院外科)
Eisuke Booka	坊岡 英祐 (浜松医科大学外科学第二講座)
Gumpei Yoshimatsu	吉松 軍平 (福岡大学病院再生医療センター)
Hajime Imamura	今村 一步 (長崎大学病院移植・消化器外科)
Hajime Orita	折田 創 (順天堂大学医学部附属順天堂医院食道・胃外科)
Hiroki Teraoku	寺奥 大貴 (徳島大学大学院 医歯薬学研究部消化器・移植外科学)
Hironori Shiozaki	塩崎 弘憲 (東京ベイ浦安市川医療センター)
Keisuke Kosumi	小澄 敬祐 (熊本大学病院消化器外科)
Keizo Kaku	加来 啓三 (九州大学病院臨床・腫瘍外科)
Kengo Hayashi	林 憲吾 (金沢大学附属病院消化管外科)
Kenji Fujiwara	藤原 謙次 (木村病院外科)
Manabu Mikamori	三賀森 学 (西宮敬愛会病院消化器外科)
Masahiko Kinoshita	木下 正彦 (大阪公立大学大学院肝胆脾外科学)
Masahiro Shinoda	篠田 昌宏 (国際医療福祉大学成田病院消化器外科)

Masahisa Ohtsuka	大塚 正久 (西宮敬愛会病院低侵襲治療部門 外科)
Masato Yoshikawa	吉川 雅登 (徳島大学大学院 医歯薬学研究部消化器・移植外科学)
Masatsugu Ishii	石井 政嗣 (栃木県立がんセンター肝胆脾外科)
Mitsuhiko Ota	太田 光彦 (国立病院機構 九州医療センター消化管外科)
Nobuhisa Matsushashi	松橋 延壽 (岐阜大学外科学講座消化器外科・小児外科学分野)
Ryo Karakawa	辛川 領 (公益財団法人がん研究会 有明病院形成外科)
Ryuma Tokunaga	徳永 竜馬 (とくなが内科胃腸科外科クリニック)
Shingo Shimada	島田 慎吾 (旭川医科大学肝胆脾・移植外科)
Shinichiro Kobayashi	小林 慎一郎 (長崎大学大学院移植・消化器外科)
Takaaki Higashi	東 孝暁 (熊本大学大学院消化器外科)
Takeo Toshima	戸島 剛男 (九州大学大学院消化器・総合外科)
Tomohiro Kurokawa	黒川 友博 (ときわ会常磐病院外科)
Toshiaki Yoshimoto	良元 俊昭 (徳島大学大学院 医歯薬学研究部消化器・移植外科学)
Yuhei Waki	脇 悠平 (愛媛県立新居浜病院消化器外科)
Yuma Wada	和田 佑馬 (徳島大学病院消化器・移植外科)

事務局便り

2024年10月よりACS日本支部のSecretaryを拝命しました。第14代Presidentに就任された慶應義塾大学の北川雄光先生からご指名をいただき、大変光栄に思う気持ちと大役が自分に務まるか不安に思う気持ちが交錯する中でお引き受けした次第です。前事務局からの引継ぎの場となったサンフランシスコの日本支部情報交換会およびClinical Congress2024では、前(第13代)Presidentの國土典宏先生(国立国際医療研究センター理事長、東京大学名誉教授)がPresidentとしてもGovernorとしても精力的に国際的に活躍されるのを、前Secretaryの長谷川潔先生(東京大学大学院医学系研究科臓器病態外科学肝胆脾外科、人工臓器・移植外科教授)が緻密に情報交換会を運営されるのを目の当たりにし、Secretaryとしての責任感を改めて感じました。引継ぎ直後から早速Secretary業務に追われていますが、國土先生、長谷川先生、そして秘書の仲田むつみ様のご支援のおかげで大過なく船出ができたと思っています。3人の方々に深く感謝申し上げます。

新Presidentの北川先生は、私が慶應義塾大学外科学教室に医局員として在籍した際、学問も人生も手とり足取りご指導くださった恩師です。今度はSecretaryとしてお仕

えすることになりましたが、足手まといにならぬよう奮闘せねばと思っています。

Treasurerの島田光生先生(徳島大学)、Councilorの江口晋先生(長崎大学)、高折恭一先生(市立長浜病院)、川瀬和美先生(東京慈恵会医科大学)、長谷川潔先生(東京大学)、吉田寛先生(日本医科大学)のご指導を仰ぎながら、Secretaryとしての役目を果たして参りたいと存じます。不慣れな支部運営となるかもしれませんが、ACS日本支部会員、関係者の皆様には、いっそうのご支援ご協力をお願いしたく何卒よろしくお願い申し上げます。

ACS日本支部事務局 篠田昌宏

〒286-8520 千葉県成田市畑ヶ田852番地

国際医療福祉大学成田病院消化器外科医局内

Email: masa02114@yahoo.co.jp, acsjpn-admin@umin.ac.jp



Medtronic

その手技に、
自由を



待望の
7mm径対応

Sonicision™ 7
コードレスシステム

コヴィディエンジャパン株式会社
サージカル
Tel:0120-998-971
medtronic.co.jp

販売名: Sonicision 7 コードレスシステム
医療機器承認番号: 30500BZX00058000

使用目的又は効果、警告・禁忌を含む使用上の注意等の情報につきましては製品の電子添文をご参照ください。
© 2025 Medtronic.
Medtronic及びMedtronicロゴマークは、Medtronicの商標です。TMを付記した商標は、Medtronic companyの商標です。

SI-A1178

抗悪性腫瘍剤 / 抗PD-L1^{注1)} ヒト化モノクローナル抗体
生物由来製品、創薬、処方箋医薬品^{注※)} 最適使用推進ガイドライン対象品目 | 薬価基準収載

テセントリク® 点滴静注 1200mg

TECENTRIQ®
atezolizumab

アテゾリズマブ (遺伝子組換え) 注
®F. ホフマン・ラ・ロシュ社 (スイス) 登録商標

抗悪性腫瘍剤 抗VEGF^{注2)} ヒト化モノクローナル抗体
生物由来製品、創薬、処方箋医薬品^{注※)} 薬価基準収載

アバステン® 点滴静注用 100mg/4mL
400mg/16mL

AVASTIN®
bevacizumab

ベバシズマブ (遺伝子組換え) 注

注1) PD-L1: Programmed Death-Ligand 1

注2) VEGF: Vascular Endothelial Growth Factor (血管内皮増殖因子)

注※) 注意—医師等の処方箋により使用すること

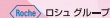
「効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報」等については、電子化された添付文書をご参照ください。

製造販売元



中外製薬株式会社

〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1



ロシュグループ

【文献請求先及び問い合わせ先】 メディカルインフォメーション部

TEL:0120-189-706 FAX:0120-189-705

【販売情報提供活動に関する問い合わせ先】

<https://www.chugai-pharm.co.jp/guideline/>

2025年2月作成